

筑紫野市に大雨特別警報が発表。 災害の警戒にあたる

7月5日(水)、数十年に一度の大災害が起る恐れがあるときに発表される「特別警報」が初めて筑紫野市に出されました。大雨への対応の経過についてお知らせします。

大雨への対応の概要

7月5日、梅雨前線により大気の状態が不安定となり、14時58分筑紫野市に大雨警報が発令され、市は対応職員を招集し、筑紫野市災害警戒本部を設置しました。また、併せて生涯学習センター、カミィリヤ、各コミュニティセンター7館を自主避難所として開設しました。



災害警戒本部に参集した職員に指示を行う藤田市長

●対応の経過

7月5日(水)

- 14時58分 大雨警報発令、筑紫野市災害警戒本部設置、自主避難所開設
- 17時49分 土砂災害警戒情報発令、筑紫野市災害対策本部に移行
- 17時51分 大雨特別警報発表
- 19時00分 山家地区に避難準備・高齢者等避難開始を発令、周知のため広報車で巡回

降り続く雨のため、災害の危険性が高まったとして、17時49分土砂災害警戒情報が発令され、災害警戒本部から災害対策本部に移行しました。またその後、17時51分には気象庁から大雨特別警報(※)が発表となりました。

19時には、特に災害の発生する恐れがあった山家地区全域に対して避難準備・高齢者等避難開始を発令。山家地区に周知のため、消防団山家分団と連

携してアナウンスを行いながら広報車で巡回しました。

幸いにも市内には大きな被害はありませんでしたが、7月7日の大雨警報の解除までに、9回の災害警戒本部会議と16回の災害対策本部会議を実施し、常時市内巡回を行うなど警戒を行い、市民の皆さんの安全な生活の確保に努めました。

【避難状況】最大14人

- ▽コミュニティセンター 10人
- ▽生涯学習センター 1人
- ▽小地区公民館 3人

※特別警報とは、これまでに経験したことのないような、数十年に一度の大災害が起る恐れがあるときに最大限の警戒を呼び掛けるものです。

朝倉市、東峰村などでは甚大な被害

今までにない猛烈な雨が降り続いた朝倉市や東峰村などでは、河川の氾濫などにより甚大な被害が発生しています。被災された皆様には心からお見舞

い申し上げます。
筑紫野太宰府消防本部では、現地において行方不明者の捜索や救助活動を行っております。

また、緊急消防援助隊として広島県、長崎県、山口県の消防署から109台の消防車と388人の隊員が到着しました。円滑に救助活動などが行えるよう、現地に向かう中継地として7月6日からカミィリヤ前の諸田グラウンドを提供しました。カミィリヤ老人福祉センターや諸田グラウンドをご利用の皆様には、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

市では、引き続き被災地の状況を見視しながら、支援を行ってまいります。なお、被災地の支援のため義援金を受け付けています。詳しくは24ページをご覧ください。



土砂に埋もれた家屋で捜索する消防本部の隊員(朝倉市)